

横浜市立恩田小学校 学校評価報告書 (平成25年度～平成27年度)

共通取組 重点取組	平成25年度		
	具体的取組	自己評価結果	総括
1 確かな 学力	一人ひとりのニーズに対応した教育を実現し、基礎・基本の確実な定着を図るために、知識技能の習得と活用に向けた授業の改善や朝学習の時間の活用を行っています。 教科等の授業研究を通して、個々の教職員の授業力・指導力向上を図り、魅力ある分る授業を展開しています。	朝学習や朝読書、はまっこ学習ドリルなどの活用を通して基礎基本の定着に迫ることができた。また、定着した基礎基本を活用しながら「仮え合い」や「学び合う」姿勢が身につく、言語活動の充実が図れた。 国語科の研究を中心に授業力・指導力の向上を目指すことができたが、研究初年度で遅れない点も多く、課題を残した。	A B C D
2 豊かな 心	一人ひとりが、自分をかけがえない存在として思えるようにするとともに、他の人も同様にかげがえない存在として尊重できる、思いやりの心をもち、誰とでも仲良くできる子どもの育成をめざしています。 正しく善悪を判断し、社会のルールやマナーを守る規範意識や礼儀を大切に育てる態度を育て、自分と同じように相手と尊重する心や態度を育てています。	各教科、領域、行事等の時間を通じて、常に認め合いながら成長していくことの支障ができた。 朝会、児童指導、たてわり活動、委員会活動等で「あいさつ」や「歩く」ことを大切に「心」「態度」を育てることができた。しかし、高学年は「あいさつ」、低学年は「歩く」を実行する場面で見逃している。 いじめや不登校の現象は、ほとんど見られず、学校に前向きに通学を育てることができた。	A B C D
3 健やかな 体	自己の体力や運動とのかわりを知り運動することを楽しむ子どもを育てています。 友達と運動する楽しさを味わい、互いに仲間とかわり合う子どもを育てています。	「運動会」の活動を充実させ、運動することを楽しむ児童を育てることができた。 「マラソン」大会等かわり合いながら、運動を楽しむような活動を設定できた。 年間を通して欠席がほとんどなかった。	A B C D
4 教職員の研究・ 研修	授業力・指導力を高め、当面する本校の教育課題を解決するために、年間研修計画を立て、校内研修を実施しています。 授業力・指導力を高めるため、全教員が年1回以上「研究授業」を行い、全員で授業研究を行っています。	国語科を中心として、講師を招いて教科履、教材集のとらえから、計画的に研究研修を積み重ねることができた。 全員が授業研究を公開し合い、学び合いをすることができた。それぞれが課題を見つめ、日々の次の授業に生かす工夫を始めている。	A B C D
5 安全管理	危機管理（防災・防犯）マニュアルの見直しを図り、火災、地震、不審者侵入、事件・事故発生時に緊急連絡や通報などが適切に行われるよう行っています。 不審者対応訓練及び避難訓練など防災教育・防犯教育を計画的に実施し、事件事故や災害発生時に、児童や教師ともに適切に対応ができるよう行っています。	危機管理マニュアルをこまめに見直し、運用上の修正を加え、次年度に向けてよりよいシステムを策定する見直しもできた。 各課訓練を、計画的・定期的に実施し、児童の安全管理意識を高めることができた。一人ひとりが自分を守ることで「力」を身に付けさせることが今後の課題である。	A B C D
6 特別 支援教育	毎月の職員会議や特別支援全体会で特に特別支援教育を必要とする児童の実態を把握し、学校全体で支援するとともに、地域教育センターあおば、市が尾小学校連携指導教室及び子ども医療センター等の関係機関との連携を図りながら、児童の支援を進めています。 保護者と連携しながら、児童の個別支援計画を作成し、個に応じた指導を進めています。	職員全体で、定期的に児童に関する情報を交換し合い、全員で対応、指導、支援することができ、児童のよりよい成長に寄与できた。 各関係機関並びにカウンセラー、アシスタントティーチャーとも連携を密にして、個に応じた指導ができた。	A B C D
人材育成 組織運営	若手職員層の活力とベテラン職員層の経験や実践力を学校全体の活性化につなげていくために、学年研を基本としながら連携を密にして、それぞれの教育活動に取り組んでいます。 増加する経験の浅い教職員の育成を図るため、教育委員会主催の研修を活用するとともに、月に一度以上、メンターチームによる校内研修会を実施しています。 コンプライアンス、児童指導、いじめなどの教育課題にチームとして取り組む時間を確保するとともに、いじめの早期発見や指導上の留意点、危機管理対応能力等の研修を計画的に実施しています。 諸会議の精選や効率的な会議の運営を図り、教職員が相互に啓発・連携・連携する活気にあふれた学校運営組織の確立をめざしています。	若手とベテランがそれぞれのよさを生かしながら、バランスのよいチームワークの形成ができた。 初任者研修、2年次、3年次研修、メンターチームでの学び合い等、若手育成のための取り組みを充実させることができた。支え合いながらより高い目標を目指す教職員集団が形成された。 児童の日々の問題行動について、全職員で情報を共有することはなかなか難しかった。 多忙化を解消し、児童に寄り添ったり、教材研究をしたりする時間の確保は、今後の工夫が必要である。	A B C D
小中一貫 教職員 連携推進 プログラム 推進	こまめに情報を交換し合い、学校は違っても顔の見える職員集団を作り上げることができつつある。 授業交流を実施して、生徒・児童観、教材観を学び合い、小中一貫カリキュラムの検証をすることができた。 行事を通して、生徒・児童の交流を充実させ、中学校生活への不安を解消し、夢をもたせることができた。 次年度に向けて、4校がさらに連携して、「まち」として生徒・児童を育てていく意識ももて、計画を立てた。 地域に配慮した、各校の行事等の組み合わせをさらに調整することができた。		
学級課題 解決	いじめは大人が見えないところで起きている、という意識をもって今後も細やかな指導、慎重な対応が必要である。 学力の高い児童が充実した学習ができるよう工夫をより一層実践して欲しい。 通学路の暗かさを地域のボランティアが中心に行っていた。保護者の意識がさらに高まり、連携して子どもたちを支援できる環境を整えたい。		
評価項目 に対する 学校の見解	学習の習得や児童の学力を向上したり、不登校児が0であったりといった成果を評価していたけれど考えた。また、日々の授業、学校行事等も充実していることにもよって評価をいただいた。一方で学力の高い児童への対応、見えないいじめの対応については課題を指摘された。保護者と地域とともに連携が求められるよう方を考えながらこれらの課題の解決に向かいたい。		
学校運営 状況	笑顔あふれる学校の雰囲気は、本校の魅力として定着している。不登校や重大ないじめがなく、健康で欠席もない傾向にあることを「成果」と考える。家庭や地域との連携の充実の証でもあるととらえられる。 魅力ある分る授業づくりのための授業力・指導力向上については、まだまだ道半ばで、課題を残している。教職員の連携はよくできているが、より質の高い学び合いが今後の課題である。		

共通取組 重点取組	平成26年度		
	具体的取組	自己評価結果	総括
1 確かな 学力	一人ひとりのニーズに対応した教育を実現し、基礎・基本の確実な定着を図るために、知識技能の習得と活用に向けた授業の改善や朝学習の時間の活用を行っています。 教科等の授業研究を通して、個々の教職員の授業力・指導力向上を図り、魅力ある分る授業を展開しています。	個々の児童に寄り添った授業作り、魅力ある授業作りの方向性は見えてきているが、指導と評価の一体化等、改善の余地は多い。	A B C D
2 豊かな 心	一人ひとりが、自分をかけがえない存在として思えるようにするとともに、他の人も同様にかげがえない存在として尊重できる、思いやりの心をもち、誰とでも仲良くできる子どもの育成をめざしています。 正しく善悪を判断し、社会のルールやマナーを守る規範意識や礼儀を大切に育てる態度を育て、自分と同じように相手と尊重する心や態度を育てています。	概ねよい状態を保っているが、個として、または集団として、指導が必要な場面がまだある。さらなる指導力向上が必要となっている。	A B C D
3 健やかな 体	自己の体力や運動とのかわりを知り運動することを楽しむ子どもを育てています。 友達と運動する楽しさを味わい、互いに仲間とかわり合う子どもを育てています。	けがが多く、運動能力の低下は懸念される。意図的計画的な指導が必要である。	A B C D
4 教職員の研究・ 研修	授業力・指導力を高め、当面する本校の教育課題を解決するために、年間研修計画を立て、校内研修を実施しています。 授業力・指導力を高めるため、全教員が年1回以上「研究授業」を行い、全員で授業研究を行っています。	本校の教育課題に即した研究研修体制にはまだなっていない。教育課題の共通認識から始める必要がある。	A B C D
5 安全管理	危機管理（防災・防犯）マニュアルの見直しを図り、火災、地震、不審者侵入、事件・事故発生時に緊急連絡や通報などが適切に行われるよう行っています。 不審者対応訓練及び避難訓練など防災教育・防犯教育を計画的に実施し、事件事故や災害発生時に、児童や教師ともに適切に対応ができるよう行っています。	定期的、意図的に安全行事を組んでいるが、細かい点で十分とはいえない。迅速な振り返りを行うことで、効果的な改善策は見えてきている。	A B C D
6 特別 支援教育	毎月の職員会議や特別支援全体会で特に特別支援教育を必要とする児童の実態を把握し、学校全体で支援するとともに、地域教育センターあおば、市が尾小学校連携指導教室及び子ども医療センター等の関係機関との連携を図りながら、児童の支援を進めています。 保護者と連携しながら、児童の個別支援計画を作成し、個に応じた指導を進めています。	人的環境、時間確保等整えられていない点が多く、評価は高くない。保護者との細やかな配慮のあるやりとりはできてきている。	A B C D
人材育成 組織運営	若手職員層の活力とベテラン職員層の経験や実践力を学校全体の活性化につなげていくために、学年研を基本としながら連携を密にして、それぞれの教育活動に取り組んでいます。 増加する経験の浅い教職員の育成を図るため、教育委員会主催の研修を活用するとともに、月に一度以上、メンターチームによる校内研修会を実施しています。 コンプライアンス、児童指導、いじめなどの教育課題にチームとして取り組む時間を確保するとともに、いじめの早期発見や指導上の留意点、危機管理対応能力等の研修を計画的に実施しています。 諸会議の精選や効率的な会議の運営を図り、教職員が相互に啓発・連携・連携する活気にあふれた学校運営組織の確立をめざしています。	時間確保が容易ではなく、自らの健康状態を良好に保ちつつ職務に当たることができない場合がある。今年度は毎月、行事等の振り返りを迅速に実施し、次年度に向けてよい準備ができつつあるが、効率的な運営力が学校として必要とされる。	A B C D
小中一貫 教職員 連携推進 プログラム 推進	こまめに情報を交換し合い、学校は違っても顔の見える職員集団を作り上げることに関して、前年度より積み上げがあった。 授業交流を実施して、生徒・児童観、教材観を学び合い、小中一貫カリキュラムのさらなる検証をすることができた。 行事を通して、生徒・児童の交流を充実させ、中学校生活への不安を解消し、夢をもたせることができた。 次年度に向けて、4校がさらに連携して、「まち」として生徒・児童を育てていく意識ももて、計画を立てた。 地域に配慮した、各校の行事等の組み合わせをさらに調整することができた。		
学級課題 解決	教師の日々の努力が基礎的基本的事項の定着に表れている。今後も児童にあった指導を工夫し、この状況を継続して欲しい。 心の成長に対する指導支援は、挨拶を含め、今後も継続して欲しい。 健やかな体を育成するため、学校でできる場を設定し、運動することの大切さを児童が実感できるようにして欲しい。 安全管理に関しては概ね良好であるが、常に振り返りを行い、よりよいものを構築していくことが望まれる。 これまでの実績を大切にしたが、地域に根差した教育を、学校を拠点として、今後さらに発展させていってほしい。		
評価結果に 対する 学校の見解	児童一人ひとりに寄り添った学習を行い、今後も基礎的基本的事項の定着を図っていく。また、21世紀型学力を身につけるための授業改善に取り組んでいく。 児童支援専任を中心とし、学校全体の児童の状況把握に努め、道徳教育を要しながら心の教育を進めていく。 安全管理に関しては、常に児童の安全を最優先とし、より良いものを求めて改善をしていく。 地域の教育力をさらに学校と連携させ、恩田地区の学校であることをアピールし、みんなが集える場となることを目指していく。		
学校運営 中期目標 達成状況	笑顔と挨拶の溢れる学校の雰囲気が定着し、子どもたちがのびのびと日々の学校生活を送っていることは、学校・家庭・地域の良好な関係の基に、本校教育活動が充実してきていると捉える。●課題をもつ児童に対する支援について、学校全体としての体制はまだ十分とは言えない。今後も教職員の意識を高め、全職員の共通理解の基、取り組んでいかなければならない。●これからの学校教育の在り方を見据え、大膽な授業改善を必要とする。学校だけでなく、地域・家庭を巻き込んだ新たな学びの模索を行っている。		

共通取組 重点取組	平成27年度		
	具体的取組	自己評価結果	総括
1 確かな 学力	一人ひとりのニーズに対応した教育を実現し、基礎・基本の確実な定着を図るために、知識技能の習得と活用に向けた授業の改善や朝学習の時間の活用を行っています。 教科等の授業研究を通して、個々の教職員の授業力・指導力向上を図り、魅力ある分る授業を展開しています。	個々の児童に寄り添った授業作り、魅力ある授業作りが一段進んだ。求めるものが高くなり、より厳しい自己評価ができるようになった。E S D視点の授業、アクティブラーニングの手法にも挑むことができ、成果が出ている。	A B C D
2 豊かな 心	一人ひとりが、自分をかけがえない存在として思い、尊重しあえる思いやりの心を持ち、互いに支えあえる子どもの育成をめざしています。 正しく善悪を判断し、社会のルールやマナーを守る規範意識や礼儀を大切に育てる態度を育てるとともに、未来に向かって力強く歩んでいく姿勢を身に付けられるよう支援しています。	あいさつや返事などの反応力が向上していると捉えている。集団として、個に優しく寄り添える文化が定着してきた。個として、指導が必要な場面がまだあるが、昨年度課題が多かった児童も概ねよりよく成長を遂げている。	A B C D
3 健やかな 体	自己の体力や運動とのかわりを知り、運動することを楽しみ体力の向上を自ら目指す子どもを育てています。 友達と運動する楽しさを味わい、互いに仲間とかわり合う子どもを育てています。	体育の授業の改善が進められた。「遊び」も含め、教職員が運動能力の向上を意識し始めた。けがを減らすためにも、意図的計画的な指導が必要である。	A B C D
4 教職員の研究・ 研修	本校の現状をしっかりとらえ課題を明らかにするとともに、今後示されてくるであろう新指導要領をにらみながら、年間研修計画を立て、校内研修を実施しています。 授業力・指導力を高めるため、全教員が年1回以上「研究授業」を行い、全員で授業研究を行っています。合わせてメンター研修の充実を図っています。	本校の教育課題に即した研究研修体制を目指したが、内容はまだ伴っていない。抜本的な改革が必要であると考えている。	A B C D
5 安全管理	危機管理（防災・防犯）マニュアルの運営改善を常に行い、近隣小学校とも連携しながら、火災、地震、不審者侵入、事件・事故発生時に緊急連絡や通報などが適切に行われるよう行っています。 不審者対応訓練及び避難訓練など防災教育・防犯教育を計画的に実施し、事件事故や災害発生時に、児童や教師ともに適切に対応ができるよう行っています。	定期的、意図的に安全行事を組んでいる。児童は意識を高くもって臨んでいる。訓練後の迅速な振り返りを行うことが定着した。	A B C D
6 特別 支援教育	毎月の職員会議や特別支援全体会で特に特別支援教育を必要とする児童の実態を把握し、学校全体で支援するとともに、地域教育センターあおば、市が尾小学校連携指導教室及び子ども医療センター等の関係機関との連携を図りながら、児童の支援を進めています。 保護者と連携しながら、児童の個別支援計画を作成し、個に応じた指導を進めています。	児童支援専任の立ち位置が確立してきたことで、スムーズな対応ができています。それでも職員数が足りず、苦慮する場面もあった。	A B C D
人材育成 組織運営	若手職員層の活力とベテラン職員層の経験や実践力を学校全体の活性化につなげていくために、学年研を基本としながら連携を密にして、それぞれの教育活動に取り組んでいます。 増加する経験の浅い教職員の育成を図るため、教育委員会主催の研修を活用するとともに、メンターチームによる校内研修会を実施しています。 コンプライアンス、児童指導、いじめなどの教育課題にチームとして取り組む時間を確保するとともに、いじめの早期発見や指導上の留意点、危機管理対応能力等の研修を計画的に実施しています。 諸会議の精選や効率的な会議の運営を図り、教職員が相互に啓発・連携・連携する活気にあふれた学校運営組織の確立をめざしています。	組織体制を改善したことで、研修や情報交換、コミュニケーションの時間が確保しやすくなった。毎月、行事等の振り返りを迅速に実施した結果、年度末の時間に余裕ができた。30周年に向けて、さらに効率的な運営力が学校として必要とされる。	A B C D
小中一貫 教職員 連携推進 プログラム 推進	こまめに情報を交換し合い、学校は違っても顔の見える職員集団を作り上げることができた。 自主的な授業交流を実施して、生徒・児童観、教材観を学び合い、小中一貫カリキュラムのさらなる検証をすることができた。 昨年年度以上に、交流行事を実施して、生徒・児童の交流を充実させ、中学校生活への不安を解消し、夢をもたせることができた。 次年度に向けて、4校がさらに連携して、「まち」として生徒・児童を育てていく意識ももて、計画を実施できた。 地域に配慮した、各校の行事等の組み合わせが前年度以上に細やかに調整することができた。		
学級課題 解決	子どもたちのあいさつが地域をも明るくしている。他者への思いやりの具体的表現であると考えられる。●運動を始める子どもを育てることが大切である。運動を通じて体力や我慢する姿勢を育ててほしい。●授業研究会の報告書などを発行して、学校の努力や向上心を保護者にアピールしてほしい。●行事等の迅速な振り返りは大変効果的であり、よい対応と考える。●校長のリーダーシップのもと、学校と地域、家庭にある垣根を取り去って相互理解と協力ができるような体制づくりの第一歩が踏み出された評価している。●さらに一歩進んで、「恩田あって〇〇」と噂されてうらやましがられる特異的な学校になってほしい。		
評価結果に 対する 学校の見解	●「豊かな心」という観点では、概ねよい評価を得られたが、「あいさつ」の指導と評価をはじめ、心を開いて学び合えるような環境づくりには継続的な努力が必要であると捉えている。●「遊び」の中で子どもたちの運動能力の向上が図れるように、学校の内外で、意図的な取組を考えていく。●授業づくりの視点や工夫と、子どもたちの学力の向上との関連性について、保護者にさらに発信し、地域とともに学び合える学校を目指していく。●地域連携をさらに充実、深化させて、子どもたちの学びの幅を広げるとともに、子どもたちの心の拠り所となるような「恩田のまち〜ふさごとくつくり」に寄与したい。		
学校運営 中期目標 達成状況	子どもたちが生き生きと活動する姿が学習、行事、生活場面多く見られる。子どもたちは学校、保護者、地域に見守られているという安心感があるからこそ、自分らしさを大切に活動できているのであろうと捉える。●子どもたち個々がもつ課題は多岐に渡り、担任のみの努力では対応しきれない場面が年々増えている。児童支援専任も2年目となり、組織的対応は定着してきているが、外部組織を含め、今後さらに広い視野をもってこの課題に取り組んでいかなければならない。●授業改善に向けて、一人ひとりの職員の努力はすばらしいものがある。しかしながら、この先に出される指導要領についての学びを深め、それに伴う学校としての明確な方向づけと理論の構築に向けての動きを加速する必要がある。		